



平成27年8月7日

各位

会社名 藤田観光株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 瀬川 章  
 (コード番号: 9722、東証第一部)  
 問合せ先 取締役 企画グループ長 伊勢宜弘  
 (TEL. 03-5981-7723)

## 第2四半期連結累計期間業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

平成27年2月13日に公表いたしました平成27年12月期第2四半期連結累計期間(平成27年1月1日～平成27年6月30日)の業績予想と、本日公表の第2四半期決算実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 平成27年12月期第2四半期連結累計期間業績予想と実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 30,000	百万円 △1,700	百万円 △1,800	百万円 △1,500	円銭 △12.52
実績値(B)	30,249	△845	△838	△824	△6.88
増減額(B-A)	249	854	961	675	
増減率(%)	0.8	-	-	-	
(参考)前期第2四半期実績 (平成26年12月期第2四半期)	30,826	△73	△92	△255	△2.13

#### 2. 第2四半期連結累計期間業績予想の修正理由

売上高は、宿泊部門が、訪日外国人の増加を背景に、客室の利用単価が想定以上に上昇するなど、WHG事業を中心に、堅調に推移しました。一方、平成27年5月6日の箱根大涌谷の噴火警戒レベル2への上昇以降、リゾート事業において、予約のキャンセルや利用人員の減少が相次ぐなど、少なからぬ影響を受けております。しかし、連結全体では前回発表予想を上回る結果となりました。

営業利益、経常利益は、宿泊部門の客室利用単価上昇による増収を主因として、利益率が改善し、増収額を上回る増益となりました。なお、四半期純利益についても、増益に伴い税金費用が増加しましたが、増益となりました。

#### 3. 通期連結業績予想について

日本政府観光局(JNTO)の統計によると、1月～6月の訪日外国人は過去最高の914万人に達し、今後も更なる増加や、国内消費の押し上げが期待されるなど、宿泊部門を中心に業績が堅調に推移することが予想されます。一方で、箱根大涌谷の警戒レベルは、平成27年6月30日にレベル2から3に上昇し、箱根エリアの観光客が更に減少するなど、先行きは不透明な状況にあります。

通期連結業績は、宿泊を中心としたWHG事業は引き続き好調に推移すると見込んでおりますが、リゾート事業の主要施設である「箱根ホテル小涌園」、「箱根小涌園ユネッサン」など箱根エリアの営業施設では、利用客数は当初見込みより大幅に減少することが予想されます。これらを踏まえた予想数値としては、売上高はWHG事業の増収以上にリゾート事業が減収となる可能性があります。営業利益、経常利益、当期純利益の各利益では、第2四半期連結累計期間と同様、利益率の高い宿泊部門の売上高の増加や、リゾート事業の固定費削減などにより、予想数値並みになると見込んでいます。よって、現時点では、平成27年2月13日に公表いたしました予想数値に変更はありません。なお、今後の状況の変化や、業績推移に応じて修正の必要性が生じた場合は、速やかに公表いたします。

(参考)平成27年12月期の通期連結業績予想(平成27年2月13日公表)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
通期	百万円 64,200	百万円 △1,300	百万円 △1,500	百万円 △500	円銭 △4.17

以上